



THE  
TREES OF  
JOMON  
の



第13号

2023, 1.1

水子貝塚公園・水子貝塚資料館ニュース

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

QRコード



編集・発行：水子貝塚資料館

☎ 049-251-9686

〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

FAX 049-255-5596

## 水子貝塚公園で皆既月食観察会！天王星食も観察

令和4年11月8日、閉園後の水子貝塚公園で皆既月食の観察会が開かれ、市内から81名の参加者がありました。

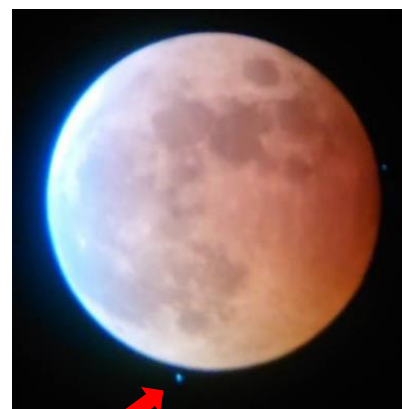
月食とは、太陽と月の間に地球が重なり、地球の影で月が欠ける現象です。特に月が完全に地球の影に隠れることを皆既月食と呼びます。さらに今回は月の裏側に天王星が隠れる天王星食も見られることが話題となっていました。天王星食が起こるのは442年ぶり、皆既月食と重なるのは過去5千年間で初めてのことだそうです。天王星は6等星という肉眼でギリギリ見える明るさの星で、月に近づく間際までそれが天王星だとなかなか認識できません。

観察会は17時30分から開始しました。まず、事前学習として、展示館で市民学芸員による太陽系と月のクレーターの解説が行われました。



欠け始める月(18時31分頃)

次に場所を園内に移して望遠鏡による月の観察が行われました。18時頃、東の空から現れた月は、18時9分から暗くなり始めました。太陽の光の赤い光だけが地球の大気の影響により屈折して届くため、月の色は赤く見えます。19時30分頃、月は皆既月食の状態になり、そして皆既が終わる20時49分頃の直前に天王星食が起こりました。21時22分頃、天王星は月の裏から再び出現しました。その後21時49分頃、月は完全に満月の状態に戻りました。



月に隠れる天王星

参加者は望遠鏡越しにスマートフォンによる撮影に臨みましたが、予想外に早く動く月に驚いていました。

今回の月食は約2時間と長く、天王星食が起こるまで時間があったので、その間参加者は木星や火星など他の惑星の観察も楽しんでいました。中でも木星はたくさんの衛星があることで知られていますが、特に有名なガリレオ衛星と呼ばれるイオ・エウロパ・ガニメデ・カリストの4つの衛星もしっかり確認することができました。

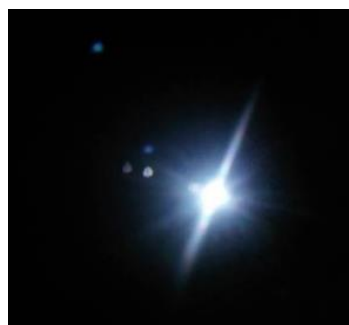
今回の月食は約2時間と長く、天王星食が起こるまで時間があったので、その間参加者は木星や火星など他の惑星の観察も楽しんでいました。中でも木星はたくさんの衛星があることで知られていますが、特に有名なガリレオ衛星と呼ばれるイオ・エウロパ・ガニメデ・カリストの4つの衛星もしっかり確認することができました。



皆既月食(20時40分頃)



月食の終わり(20時49分頃)



木星とガリレオ衛星



夜の水子貝塚公園



## 展示室フ千百科 Vol. 7 ハケ上遺跡の人面装飾付土器

平成4年(1992)に発掘調査を行った関沢1丁目のハケ上遺跡<sup>はけうえ</sup>から出土した縄文土器の口縁部に付いていた人面を模した装飾です。

大きさは、残存部位で高さ13cm、幅12cmを測り、かなり大形の土器に付いていたと思われます。土器の内側に向けた顔の部分は、大きな丸い目と鼻で表現されています。頭頂部には力士の大銀杏やイカを思わせる三角形の突起が付いており、顔の右下にはおそらく耳飾りと思われる小さな穴があいています(左側は欠損)。土器の外側となる後頭部にあたる部分にも二つの大きな穴があり、ヘラ状の工具によってキャタピラーのような模様が施されています。

この人面装飾は、縄文時代中期前半(約5,200年前)に作られたもので、関東甲信地方に類例があります。土偶を土器に貼りつけたことがはじまりで、土偶装飾付土器とも呼ばれています。土偶の顔は、国宝の縄文のビーナスのように目が細いものばかりで、丸い目のものはありません。土器

の土偶装飾も最初はつり目でしたが、少し遅れて丸目のものが生まれます。土偶には丸目のものはありませんから、丸目は土器専用として生まれたものです。この人面装飾が付けられていた土器の本体は見つかりませんが、おそらく本体には土偶の体が貼り付けられていたはずで

中期中頃(約5,000年前)には、羽沢遺跡の「ムササビ土器」の「尻尾」部分の装飾のように変化します。



顔面部(土器の内側)



後頭部(土器の外側)

## 第10回ふじみジュニア考古学クラブ開催

10月29日(土)から12月10日(土)にかけて全5回にわたり開催しました。10年目を迎えた今回は、市内の小学4~6年生17人が参加しました。

### <第1回土器の圧痕を調べてみよう>

金沢大学の佐々木先生から土器の圧痕について講義をうけたあと、実際に自分たちも圧痕調査に挑戦しました。ダイズとアズキの違いや、縄文時代にどのような植物があったのかを学習しました。



### <第2回遺跡のある場所を探そう>

市内の遺跡や神社・お寺などをめぐるフィールドワークを行いました。大應寺、水宮神社、御嶽山、鎌倉道、お井戸、性蓮寺などを巡りました。



### <第3回発掘資料を研究しよう>

考古資料の研究として、土器の模様を墨で紙に写し取る拓本や、スケッチ、写真撮影を行いました。



### <第4回研究成果を展示しよう>

第3回で行った研究の成果を、自分たちでレイアウトを考え、実際に展示を行いました。



### <第5回発掘現場を見学しよう>

打越遺跡(東みずほ台4丁目)の発掘調査現場を見学しました。現場では貝塚を伴う竪穴住居跡の発掘調査が行われていました。はじめて見る発掘調査に興味津々で、担当者に出土した土器や貝の種類などを質問し、考古学への興味を深めました。



最初はみなさん緊張していましたが、全日程を終える頃には学校・学年の壁を越え和気あいあいと楽しそうに活動していました。